

今、全国どここの自治体も「人口減少」と「少子高齢化」が大きな課題となっており、我が田上町もついに人口が1万2千人を割り込む事態となり、減少の流れを食い止めることができない状態が続いております。

私は、この田上で生まれ、田上に育てられ、これまでずっとこの田上の歩みを見てきた者として、この田上町が消滅するようなことが絶対にあってはならない、まだ先の話などでは決してない、喫緊の課題として真剣に取り組んでいかなければならないと考えております。

そして、この町を誰もが住んでみたいと思える町に、お年寄りの人達が生き甲斐を感じられる町に、そして若い人達が夢と希望を持てる魅力ある町にするべく、その先頭に立って精一杯頑張っております。

その私の現在の願いは、ただ一つです。

それは、田上町に住んでいる町民の皆さんが幸せにな

ることです。

あなたにとって「幸せ」とは何ですかと聞かれたら、何を考えますでしょうか。

人によって、健康であること、やりがいいのある仕事があること、信頼できるパートナーがいること、人の役に立つこと、人から必要とされること等等、人それぞれ価値観が違うように、この問いかけに対する答えは千差万別で、例え同じ人でも自分が置かれている状況や年齢によっても捉え方が違ってくるかもしれません。

「幸せ」を形づくる要素はたくさんあります。しかし、思い描く「幸せ」のかたちは違っても「幸せ」に暮らしたい」という思いは誰もが共通して持っているものではないでしょうか。そしてその思いに動かされて、人は自分なりの「幸せ」を追い求め、実現していくものだと思います。

これからの田上町を、誰もが「幸せ」と感じられる町にするために、町民の方々が自分の「夢」や「幸せ」を自由に追い求めることができる

環境を作っていくかなければならないと考えます。

私は、その実現のため、町民の皆さま、議員の皆さまと手を携えて、積極的に意欲的な政策を実行していきたいと思っております。

私の政策スローガンは「みんなと決める、みんなと進める、熱い想いを町政に！」です。基本政策は「オール田上でまちづくり」と「町民の幸福を追求するまちづくり」です。

田上町は、平成の大合併からは一線を画し、田上町単独でやってきました。職員、町民の方々に痛みを伴うご苦労はありましたが、財政の健全化ということを思うときに一定の成果を上げてきたと思います。前佐藤邦義町長を始め、町議員の皆さま、町民の皆さま、町役場の職員に改めて、敬意を表します。

町単独ということは、苦労も多いですが、これから大きく発展する源にもなれます。「我が町」という気持ちになれるのは大きな強みではないでしょうか。「我が町」のために、みんなで知恵を出し

合い、考え、決める。決めたことは協力し合い前進させることが大切と考えます。

町民一人ひとりの「熱い想いが町をつくり、町を変えていく」という信念のもと、町民の皆さまの参画意識を高め、優れた人材を積極的に活用したり、町民の皆さまからの意見が町政に反映するような工夫をしてまいります。

しかしながら、そうしたなかであつても、声を大にした者だけが実現する行政や社会であつてはならないと思います。声を出したくてもだせない人達、弱い立場に寄り添った、いわゆる声なき声に耳を傾けることが大切です。政治は常に弱い立場に寄り添ったものでなければならぬと思います。それが私の政治信条です。

単に「まちづくり」といっても、若い世代には若い世代のニーズや悩みがあると同時に、高齢者には高齢者のニーズや悩みがあります。

これらのニーズや悩みを広く拾い上げ、調整していくには「オール田上」の体制が絶対に必要です。そうした事

からも「オール田上でまちづくり」は人口減少を食い止める、田上町に住んでみたい、住み続けたいという人を如何に増やすか、そして町民の絆を如何に深めていくかという観点で思い切った政策立案していくことが大切であると考えます。

具体的な政策につきましては、今年度中に取りかかれるもの、来年度から取りかかれるもの、長期展望に立った検討や準備が必要ものに分け、これから、関係する皆さまの意見や要望を聞き、「町民の幸せ」を一番に据えて取り組んでまいります。

田上町の5か年計画や都市計画の実施にあたり、町民の皆さまから、「我が町づくり」のために「オール田上」で知恵を出し合うことが求められています。

そのための大きな観点は「人口減少対策」です。十年後、二十年後、田上町が田上町として存在している為に、どうやって「交流人口」を増やし、「定住人口」につなげていくかが肝心です。

産業振興は、町の財政にと

って大切な柱です。関係者のご努力で長年の懸案事項であった工業団地への企業誘致もほぼ見通しが立ち、大型商業施設の誘致も決まっております。田上町交流会館の建設も来年の春ごろの完成に向けて工事も今まさに進んでおります。さらに、その後

に建設される「道の駅」はこれからのまちづくりの一つの大きな拠点となつてまいります。国道403号小須戸・田上バイパスの完成も見通しがついてまいりました。

新しい施設がどれだけ、町にぎわいや町民の利便性に効果を発揮するか、バイパスの発展と旧403号の個人商店等の関係、湯田上温泉や護摩堂山との関わりはどうしていくのか。町営の巡回バスの設置の早急の検討が必要です。併せて農業の振興も重要です。山通りと川通りの間に広がる田畑が田上町の大きな特徴です。農家の方が安心して作物づくりができる環境整備に力を入れていきます。

社会福祉につきましては、町は今までも一生懸命に取

り組んできました。行政として、今後もしっかり力を入れていきたいと思えます。

しかし、行政だけでは解決できない面があります。「自助」（自分で自分のことをする）、「互助」（お互いに助け合う）、「共助」（制度化された互助）「公助」（行政によるもの）という言葉があります。行政として「公助」の充実を図るのは当然ですが、私は社会福祉には「互助」について強い思いがあります。

私の基本政策の一つである「町民の幸福を追求するまちづくり」に関係してくるのですが、人は自分が幸せだと感じる時、自分の幸せはもちろんです。一人の幸せを願う心「の充足も自分の幸せに入っているのではないでしょう。か。「周りの人への心遣いや思いやりのあふれる町」「心地よいコミュニティ（つながりのある集団）があり、温かな心通うコミュニケーション（人と人との意思の疎通）がある町」が私の願う「田上町」です。この「人の幸せを願う心」を持った人の集まりが、田上町の財産であり、

その力の結集が「オール田上での町づくり」に結びついていくのだと思えます。

教育・子育て支援対策は「人口減少」に直接結びつく大切な政策です。

現在、町が進めています「子育て支援政策」や「田上の12か年教育」の推進のための補強をしていきたいと思えます。

現行制度で使い勝手が悪いものは見直し、強化が必要なもの新しく取り組むか、補強するような政策が必要だと思えます。

田上町が人口減少という危機を乗り越えるには、やはり「子ども達」によって人口が増えていかなければなりません。

人口減少対策に特効薬はないと言われますが、やはり基本といべきものは、こころなんだろうと思っています。それには、子ども達を産み育てていく若いお母さん、お父さん達が田上町に住んでいてよかったと思えることが大事で、産むにしても、育てるにしても、やはり経済的な負担や不安があれば、回りが

どう言おうと多くの子どもを産み育てることはできません。経済と心の支援を充実させていく必要があります。

先日、田上町役場の職員に「チャレンジ精神を持って業務にあたり、一人ひとりがその能力を十二分に発揮して、田上町民の幸せを目指して一緒に頑張りましょう」と就任のあいさつを致しました。

町民のためのサービス機関として、町民の方々から親しまれ、いつでも気さくにお出でいただけるためにも、先ずは明るい職場作りに、そして風通しの良い職場作りに一人一人が努力して頂きたいことをお願いいたしました。そのことが町民の方々の幸せに直接つながっていくものであると考えています。今回の選挙を通じて、各地区を回りながら大勢の町民の方々から様々なご意見や、要望を頂きました。それらに付きまして今後しっかりと話し合い、検討してまいります。また、町民の方々にお話をさせてもらってきた公約につきましても、その実現に

向けて誠心誠意努力していく所存でございます。

議員の皆さま、「住みよいまちづくり」のために、一緒に夢を語り、その実現に向けて、心を一つにして、田上町をもっともっと魅力ある町にしていきましょう。どうぞよろしくお願い致します。